

つくりかけ ジャーナル 3号

つくりかけラボ 02

密着取材!

つくラボに訪れるのは どんな人?



4月4日まで開催中の「つくりかけラボ02 志村信裕一影を投げる」。どんな人がどんな風に過ごしているのでしょうか?とある日曜日のつくラボに記者が密着取材しました。

最初にお話を聞いたのは、元気がいいの男の子3人と一緒に訪れた女性。近所にお住まいで、つくラボは2度目の訪問とのこと。「子どもたちとスライド(*)をつかったので持ってきました。小さな子は展覧会だけだと飽きちゃうから、わいわい楽しめる企画があるのとても嬉しいです」。10分間ずつ入場する仕組みなので、まるで貸し切りのように過ごせます。その後も何組もの親子連れが来場されました。

もちろん大人ひとりや友達同士での来場も。待合時間にもこのこと楽しそうにしていたのは、美術館に初めて来たというふたりの女子高校生。「インスタグラムを見て来ました。美術館って静かだから緊張した!あと子ども達がつくったスライドを見て発想がすごいと思いました」と答えてくれました。ひろびろとした空間ときらきらした映像を全身で楽しむ子どももいれば、作品を静かに見つめる大人もいる。企画展の帰りに偶然立ち寄る人もいれば、何度も訪れて変化を味わう人も、作家さんに会いたくて訪れる人もいます。それぞれの過ごし方がぎゅっと集まった1日でした。

つくラボの会場スタッフも、来場される方のペースに合わせてご案内するようにしています。気にな

ある日のつくラボ



ることや、聞きたいことがあれば遠慮なく話しかけてください。

*オリジナルのスライドをつくる「ダイレクト・プロジェクトワークショップ」を開催中です。つくラボでキットを受け取り、ご自宅でスライドをつくったら、ぜひ会場で投影を。



投影されている映像をじっと見たり、作家さんとお話したりと過ごし方は人それぞれ。

意外だったこと

アーティストにも 発見がある

「正直に言うと、こんな風なものが出るとは思ってなかったんです」。そう語るのは、アーティストの志村信裕さん。ワークショップで参加者が撮った映像や、持ち込まれたスライドを投影してみて感じたそうです。

「たとえば、8ミリフィルムの撮影ワークショップ(*)の場合、撮影する体験そのものに価値をおいていました。でも、出来上がった映像も編集してみると、ちゃんと『作品』になっている。何気ない景色の連続なのに、ひきつけられてしまう。映像を見た人からも予想以上に好評でした。あと、スライド投影も面白いんです。小さな枠に限られた素材を組み合わせるだけでも、ちゃんと一人ひとりの個性が出てくるんですよ。そうやってみんながつくったものと、自分の作品が交わるのも新鮮です」(志村さん)

*ワークショップの様子は「つくりかけジャーナル2号」に掲載。



現像した8ミリフィルムを光にあてながら並べる志村信裕さん。どんな風に見えるかは、このジャーナル裏面をチェックしてみてください。

担当学芸員より

つくラボの秘密は 「ゆるさ」

いつまでたってもつくりかけ。のぞくたびに違う姿になり、来た人が好きなように過ごしていく。展覧会でもないアトリエでもない。千葉市美術館にとって、つくラボはどんな場所なんだろう? 担当学芸員に聞いてみました。

「つくりかけラボは、美術館の中にあえて『ゆるさ』を持ち込んでみる実験室のような場所です。展覧会であればオープン日までに完璧な状態にしなくては!と、空気が張り詰める感じもあります。つくラボはそうじゃなくていい。何が起きるかかわからなくて、そこには失敗も成功も同じように面白いものとしてある。過ごし方も人それぞれです。作家さんも、来館された方も、美術館で働く人も、みんながいろいろ試せて、それぞれに発見があるといいなと企画しました。美術館がもっと身近に感じられるような、つくラボが新しい入口になったら嬉しいんです」(千葉市美術館・畑井恵)

ほどよいゆるさで、関わった人を刺激するつくラボ。次はどんなことが起きるのかどうかお楽しみに。

千葉市美術館 つくりかけラボ02

志村信裕 | 影を投げる

会期 | 2021年1月5日[火] - 4月4日[日]

休館日・休室日 | 2月1日、3月1日

開館時間 | 10:00 - 18:00

(金・土曜日は20:00まで)

観覧料 | 無料

会場 | 4階子どもアトリエ



※館内にて新型コロナウイルス感染防止対策を行っております。
※開館時間を変更する場合があります。ご来館前に当館ホームページにてご確認ください。

企画 畑井恵 (千葉市美術館)
編集 丸尾隆一 (中田二会 きてん企画室)
撮影 丸尾隆一
デザイン 上田美里 (千葉市美術館)
発行 千葉市美術館
発行日 2021年3月15日

